

令和元年度 第3回 尼崎市社会教育委員会議について

標題の会議が、次のとおり行われましたので報告します。

1 日 時

令和元年 11 月 26 日（火） 午後 1 時 30 分から 3 時 20 分まで

2 場 所

尼崎市教育・障害福祉センター 3 階 教育委員会室

3 出欠状況（順不同）

- (1) 出席委員 8 名
- (2) 欠席委員 4 名
- (3) 出席職員 社会教育部長外 10 名

4 会議成立の報告

定数 12 名中 8 名が出席し、会議が成立している旨を事務局より報告した。

5 会議内容

協議に先立ち、議長から令和元年 10 月 23 日～25 日に行われた「第 61 回全国社会教育研究大会兵庫大会」に県内外から多数の社会教育関係者が参加し、盛会のうちに大会を終了することができたとの報告があった。

協議事項

1 尼崎市教育振興基本計画について

冒頭、社会教育課長から「尼崎市教育基本振興基本計画」（たたき台）について、確認期間が短い中、各委員に書面にて確認をいただいたことに対する謝意の言葉と、尼崎市教育振興基本計画懇話会を経て、資料の素案で一定まとまったとの報告があった。

その後、策定所管課である教育振興基本計画担当より「尼崎市教育振興基本計画」（素案）に沿って、第 1 部基本理念の概略と、あわせて今後のスケジュールについて 12 月ごろから 1 月にかけてパブリックコメントを実施する旨の説明を行った。

また、社会教育課企画担当係長からは第 2 部各論 「9 学校園・家庭・地域社会一体となった教育の充実」及び「10 文化・教養・スポーツ施設を活用した教育の提供」について、委員からの意見を参考に、追記・修正した内容についても補足しながら読み上げを行った。その後、社会教育課長より特にコミュニティ・スクールについて、前回協議での委員の意見に対する回答も踏まえながら、資料である「尼崎市学校運営協議会組織図」に沿って説明を行った。

【質問事項】

委員：コミュニティ・スクールは理想として考えるなら進めていきたいという思いはある。昨年と今年に本校でも様々な地域学校協働活動に取り組んでいるところだが、コミュニティ・スクールを導入するにあたって、事務局から前回協議での意見に対する回答を受けて、心強いと思うところがある反面、不安もある。例えば「学校運営協議会で学校、保護者、地域各々の役割と責任分担について話し合っていくものとする」とあるが、話し合う時間をいつ設けるのか。現場は子どもたちが学校にいる間は、子どもたちのことで精一杯である。夜に実施して保護者に出てきてもらうとなれば、子どもはその間はどのようにするのか。現状でも時間と場所の捻出にとても苦慮している中で、これ以上会議を増やすのは難しい。

議長：今後モデル校としてコミュニティ・スクールを導入する学校では、問題点も出てくると思う。前回の会議でも伝えたが、良い情報ばかりを報告するのではなく、このような問題があったということも情報として提供し、どのように解決したのかの説明を受ければ校長先生、教頭先生の不安も減るのではないか。

委員：令和2年度から学習指導要領も変わり、社会に開かれた教育課程ということが全面に打ち出されているため、教育現場としても地域と連携していくことは必須になっているが、教頭一人では厳しい現状である。地域と繋がるには地域学校協働推進員がパイプ役になるにしても、学校側も教育活動と繋げるためには窓口となる職員が必要だと思う。担任を持っている教員や、担任を持っていなくても臨時教員には、負担を考えると任せることはできない。正規職員の配置や教頭を二名体制にするなど、学校と地域に腰を据えて地域と窓口になる関係を積み重ねていけるようなミドルリーダー的な人的配置をお願いしたい。

社会教育課長：学校運営協議会の構成員は学校の応援団となる方を選ぶことがポイントとなる。実際に学校運営協議会を立ち上げたいと希望する学校に説明に伺ったが、地域の人たちは先生方が忙しいことを十分承知されており、私たちが学校のためにできることをしていきたいと話されていた。地域ができる範囲で学校を支援し、教員がきめ細かく子どもたちに接する時間を確保するためにもコミュニティ・スクールを進めていきたいと思っている。

委員：基本理念にある「1 教育の基本方針」を読むと、子どもたちを中心に考えて書かれてあると思う。「2 教育を通じて目指す人間像」でもどのようなあまっ子にしたいか、育てたいかという説明があった。しかし、「4 計画の構成」の社会教育に関係する各論9や10に着目すると、市民それぞれに適した学びを通じたといった文言や、「3 教育委員会、学校園、家庭・地域社会の役割」でも家庭・地域社会の役割として、自らも生涯を通して学び続けるといった文言も見受けられる。各々基本方針や人間像とどのようにつながっているのか。

教育基本振興計画担当係長：教育を通じて目指す人間像の部分はあまっ子像と言い換えてご説明したが、実際には人間像のなかにある「多様な他者と協働して主体的に地域社会に関わる

人」というのは、社会教育の生涯の学びも意識している。大人を育てるとなると伝わりにくいと考えると、オブラートに包んだ説明となった。家庭・地域社会の役割については、2つあり、子どもたちと一緒に育てようというだけでなく、自らも学び地域社会の活性化に努めてほしいとしている。また、関連することであるが、項目9と10だけが社会教育であると限定されないよう、各項目には社会教育という言葉を使わないよう留意している。全ての項目が全ての年代にとって、何らかの形で影響しており、社会教育という言葉を使わない、学校教育と社会教育が一体となってこの計画を推進していくということを意識している。

委員：「9 学校園・家庭・地域社会一体となった教育の充実」の部分で、成果と課題が10項目ほどあるが、最初の4つは学校と地域との連携（地域学校協働本部）、次の4つは人権教育や青少年健全育成、最後の2つで生涯学習という言葉が出てくるが、私たちの今後のテーマになると考えてよいのか。

社会教育課長：委員の意見のとおりである。全体として社会教育という言葉は使っていないが、人権教育といった普遍的なテーマや少子高齢化社会の進展等に係る課題は、今後益々重要となるテーマであると考えている。

委員：地域学校協働本部のコーディネーターも兼ねているが、一つの行事を行う毎に、学校に負担をかけていると感じている。一つ行事を行う毎に数人の先生が、子どもたちが気になるからと行事に参加されており、私達だけに任せるわけにはいかないと感じているようだ。そういった面では、校長先生のご意見も分かるし、実施する側としても実施する時期も考慮していかなければならないと思う。また、高齢化社会になってきているので、高齢者と子どもたちが一緒に協働活動ができないかと思っている。子どもだけでなく、地域の人々が積極的に参加できる協働本部になればと思う。

委員：協働というと、24時間ずっと一緒という意識がある。5年後、10年後は意識も変わっているかもしれないが、地域学校協働活動の際の責任の所在について、学校と地域の棲み分けは必要だと思う。また、コミュニティ・スクールの導入が学校の負担になったり、形だけに終わらないような意識改革、様々な分野の人の意見を聞くことも重要だと思う。

委員：私の時代と今の時代が違うので、何が正解なのかは分からない部分もあるが、昔は学校の役員会などは夜に行っていた。仕事が終わった後、夜に校長室に集まって会議をするのが当たり前の時代だった。社会教育委員会議の協議の中で、人々の感覚が昔と変わっているなど感じた。時代は変わるが、昔のことを委員の皆さんに伝えていくことも一つの役割かなと思う。良いものは残し、人と会って笑顔でコミュニケーションができるような街を作っていかなければならない。先生方が大変なのは傍で見ていて承知しているが、暖かい言葉を少しかけることでホッとできるし、子どもが大好きという大切な視点を残しながら改善、改革を進めていくことが重要だと思う。

議長：4、5年前の社会教育委員会議において、地域学校協働本部をいかに設置するかを課題に協議していた。現在36校で地域学校協働本部が立ち上がっており、今回のコミュニティ・スクールについても、モデル実施するなかで、問題点が浮き彫りになり、その問題点を解決するなかで、活動が広がっていくこともあるのではないかと思う。凝り固まった展開ではなくモデル校を参考にしながら、学校の負担にならないよう進めてもらいたい。

社会教育部長：来年度はコミュニティ・スクールが複数校立ち上がるので、社会教育部としてもしっかりサポートをしていきたい。

2 尼崎市スポーツ推進計画について

冒頭、議長から「尼崎市教育振興基本計画」（たたき台）と同様に、「尼崎市スポーツ推進計画」（たたき台）について、書面での各委員への確認後、資料の素案で一定まとまったとの報告があった。

その後、スポーツ推進課長より「尼崎市スポーツ推進計画」（素案）について、「第3章 計画の基本理念と体系」、「第4章 スポーツ推進のための今後の取組」（4つの基本方針と数値目標及び基本方針を具現化する12の施策の方向性）及び「第5章 計画の推進体制と進行管理」を中心に説明があった。今後のスケジュールについては、「尼崎市教育振興基本計画」と同様に12月下旬ごろから1月にかけてパブリックコメントを実施する予定である。

【質問事項】

議長：来年は東京オリンピック・パラリンピックが行われるため、スポーツに注目する環境は整っていると思う。尼崎市では、東京オリンピック・パラリンピックでは聖火リレーと、パブリックビューイングを予定していると聞いているが、どうなるのか。

スポーツ推進課長：マラソンにおいては本市出身の前田穂南選手が出場されるため、パブリックビューイングも検討している。

議長：どこかの国の選手が尼崎で練習を行う予定はあるのか。

スポーツ推進課長：尼崎スポーツの森で競泳とアーティスティックスイミングに出場するウクライナやリトアニアの選手が7月に事前合宿を行うと聞いている。市民との交流会なども現在計画している。

委員：基本方針ごとに目標値に関するデータが示されているが、例えば、「基本方針1 子どものスポーツ機会の充実による、体力・運動能力の向上」では、兵庫県と尼崎市における新体力テストの数値を比較すると尼崎市が兵庫県の平均値を下回る項目が多いとあるが、県内で上回る項目が多い市はどのぐらいの割合であるのか。

スポーツ推進課主事：計画の策定にあたって調べてみたが、国、県のデータは多いのだが、市ごとにデータを公表しているところが少なく、割合は分からないのが現状である。

委員：「基本方針3 スポーツ環境の基盤づくりによる、市民スポーツ活動の推進」では、令和11年度には年間利用者数を120万人になることを目指している。現在は小学校のスポーツ施設の利用者数が多いが、これからはどの施設を特に伸ばそうとしているのか。

スポーツ推進課長：中学校の学校開放が小学校に比べると極めて低いが、これは部活動の関係があり、学校開放ができなかったからである。現在は、中学校の部活動に対する方針が出され、基本的には18時30分に下校することになったので、その後の時間や土日のどちらかクラブ活動を利用しない時間に積極的に学校開放ができると考えており、小学校と同じぐらいの学校開放率に上げていきたいと思っている。

委員：「基本方針4 各種スポーツ大会・イベントを契機としたスポーツの推進」についても、増加を見込んでいるのか。

スポーツ推進課長：スポーツのまち尼崎フェスティバルは今年度すでに2万人を超えており、市主催の主なスポーツ大会・イベントの参加者数は全体で6万人を超えている。また、来年は東京オリンピック・パラリンピックが開催され、聖火リレーと合わせてスポーツのまち尼崎フェスティバルも開催するので、一緒に盛り上げていきたい。

委員：11月24日にあまがさき市民マラソンが開催されたが、参加者が少ないように感じた。「スポーツのまち尼崎」を目指して様々なスポーツイベントを開催するのは良いが、今ある一つひとつのイベントを大事にして、どうすれば長く続けられるかということも考えてほしい。また、尼崎スポーツの森の近くをよく通るが、あまり活気がないように見えるし、認知度が低いようにも思う。再来年は関西でワールドマスターズゲームズ2021が開催される。市民だけでなく、市役所職員や企業などの30歳以上の方にたくさん参加してもらい、明るいスポーツの雰囲気となるようにしてほしい。

社会教育部長：計画の各目標値については、当初は少し控えめに設定をしていたが、スポーツ団体と協議して、もう少し頑張っていくというご意見を頂き、目標数値を上げている。来年は東京オリンピック・パラリンピックもあり、盛り上がる機運もあるため全体の雰囲気の底上げを図り、10年間で目標数値を達成していきたい。

委員：今年ラグビーがワールドカップで大変盛り上がったが、来年東京オリンピック・パラリンピックも開催されるということで、尼崎市で事前合宿を行う国や尼崎市と友好都市を結んでいる国など、尼崎にゆかりのある国を広報するなど、外国と身近なところでつながって応援ができればよいと思う。

委員：競技性の高い大会とイベント色の強い大会があると思うが、イベント色の強い大会はもっとその色を出しても良いと思う。市民まつりの運営に携わっていたが、スポーツのまち尼崎フェスティバルと一緒にしないかと提案していた。競技性の高い大会には競技をやっている人しか集まらないし、イベント色が強い大会にはイベントに興味がある人しか集まらない。イノベーションを起こすなら、違うところをミックスさせないと広がっていかない。市民まつりに足を運んだら、運動のイベントもやっている。競技性の高い種目の人材を発掘するには、たくさんの方が集まるイベントと競技をミックスすることで、コスト的にも集客的にも有効だと常々思っていた。県大会、全国大会、オリンピックを目指すような競技性の高い大会は競技性の高さに特化して行えば良い。スポーツのすそ野を広げるなら、スポーツではないイベントと協力して開催すれば、市民が種目に触れる機会も生まれ、新しい人材の発掘があるかもしれない。多様性の時代なので、ミックスすることを検討すれば閉鎖的なものから新しいものが生まれるのかもしれない。

スポーツ推進課長：去年は市民まつりとスポーツのまち尼崎フェスティバルが重なり、結果的には参加者が減ったが、確かにスポーツに親しみ、なじむことで一つのきっかけづくりになると思う。

委員：市民まつりとスポーツのまち尼崎フェスティバルを見ると、関わっている人が共通している。イベントを二日間行い、その中で例えば当日参加できるかけっこ大会など行えば、すごい逸材が見つかるきっかけにもなるかもしれない。イベントに行ったらついでにスポーツができれば面白くなるのではないかな。

スポーツ推進課長：来年になるが、元オリンピック選手を招いて教室を開くことも計画している。

委員：教室だと、例えば陸上の選手を呼ぶと市内の陸上競技を行っている人が集まると思う。まだ見ぬ逸材を探す意味を込めて、イベント色を強めて参加した人が「やってみよう」「僕でもできるかもしれない」というような仕掛けがあっても良いのではないかな。

委員：尼崎の産業界を中心とした各方面の人が集まる尼崎倶楽部の定例の朝食会で、最近、スポーツ振興事業団の方が「人生を楽しむための貯筋運動」をテーマに講演された。講演とあわせて体操などで身体を動かしたりと、とても楽しいイベントだった。こういった取組を、一般市民向けのイベントとして増やしていくのも楽しいと思う。このような楽しく参加しやすいイベントを積み重ねた結果が、「スポーツのまち尼崎」につながっていくと思う。

社会教育部長：今年度のスポーツフェスティバルでアンパンマンショーを開催したところ、多くの家族連れが来場され、フェスティバルの別のイベントにも参加された。また、スポーツ以外になるが、中央図書館では尼崎城のイベントと絡めて参加者が図書貸出券を作って帰られ

た。イベントの相乗効果の有効性を感じられた。周りにアンテナをはって取り組んでいきたい。

委員：ワールドマスターズゲームズ 2021 の話になるが、水球とアーティスティックスイミングは関西ではどこの市も手を挙げず、最終的に尼崎市での開催となったと思う。現在、日本語版の開催要項が出始めていると思うが、アーティスティックスイミングは水深が 2m 以上、水球も足がつかないぐらいの深さがなければならないので、現役に近い状態でなければ出場はできないのではと思う。私は水球経験者であるが、足がつかない状態は厳しいと思う。近隣からの参加だけではなく、海外など遠方からの競技参加者もあり、これから全体の募集を行うところではあるが、尼崎市の参加者数はあまり見込めないのではないかと。

スポーツ推進課長：ワールドマスターズゲームズ 2021 についても、オリンピックと同様に盛り上げたいと思っている。ラグビー、オリンピック、ワールドマスターズゲームズと 2019 年から 2021 年はゴールデン・スポーツイヤーズと言われており、できるだけ多くの方に参加してもらうために、広報などに力を入れたい。また、ワールドマスターズゲームズ 2021 はスポーツツーリズムという顔もあり、観光とスポーツを結び付けた大会でもある。尼崎市は尼崎城も開城したので、うまく活用していきたい。

議長：関西で開催すると謳っているが、実際はどのエリアで行うのか。

スポーツ推進課長：主に大阪・京都・兵庫が多い。

委員：学校教育の場に体育があるが、学校で教える体育と部活で行う競技性の高い体育は分けて考えるべきだと思う。スポーツ振興事業団では経験者などの人材を抱えているので、学校に派遣しても良いように思う。中学校の部活は 18 時 30 分までに退校しなければならないため、競技性のある、高いレベルを求めている子どもたちは、授業が終われば、民間のクラブに行くことになる。中学校には体育専門の教員がいるか、小学校はそうではなく、様々な教科を教えなければならない。スポーツに専門性のある者を活用していくのはどうか。

スポーツ推進課長：施策としては学校教育になるが、スポーツ振興事業団のスポーツ指導員を各小学校に人材として派遣することを予定している。教員の指導力も不足しているため、教員の指導と子どもたちの指導を行っていくことで、子どもたちの体力が向上すると考えている。

3 その他

事務局より、令和元年 10 月 23 日～25 日に行われた「第 61 回全国社会教育研究大会兵庫大会」への委員の参加に対して改めて謝意を述べた後、令和 2 年 2 月 4 日(火) 15 時半から中央図書館において開催する「阪神南地区社会教育委員協議会研修会」についての説明があった（尼崎城の施設見学及び尼崎市総合政策局協働部生涯、学習！推進課による「尼崎市立生涯学習プラザの設置及び運営について」の事例発表を予定）。

また、中央図書館長より来年 1 月に中央図書館が 100 周年を迎えるにあたり、令和 2 年 2 月 2 日に記念式典が行われるほか、100 周年を祝う様々な開催事業の予定、歴博・文化財担当課長より田能資料館で開催中の特別展「第 49 回特別展どぐうちゃん」の案内がなされた。

以 上